

第29回散策路の会活動報告

- 日時：2010年3月14日（日）9：00～12：00 天候：晴れ
- 参加者：大屋進、荻野哲也、奥田せい子、栗原義昭、小坂泰子、瀬尾友紀、瀬尾祥子、長坂洋一、長山達男、福島和良、山岸啓一、山田正夫＝計12名。
- 作業内容：御所川沿いの道（石切り場への道）（6、V）整備4回目



カエル池のヒキカエル卵塊

3日間晴天が続き、今日は朝から暖かい春の陽射しに包まれた。しかし相変わらず御所川沿いの道はぬかるんでいる。カエル池にはヒキガエルの卵塊が産みつけられ、春を探しにくる人々も多くなってきた。いい足場を提供したいと御所川沿いのメインの路からカエル池・石切り場へ右折する道の整備にあたる。

★ カエル池への道に丸太の橋 ★

カエル池手前の道が湿地からの水でぬかるんでいたが、応急処置として丸太が渡されていた。それが泥に埋もれ足場もなかった。そこに新しく橋を架けた。昨年台風で倒れた木を処理して、カエル池奥に置いていた3メートルもの丸太を2本運びこみ基礎の丸太の上に並べた。この重い大木の運搬には手こずったが、大屋さんの提案で下にコロを敷きながら少しずつ転がした。あるものを生かして知恵を絞っての作業であった。（大屋、栗原、長坂）（写真☛）



★ 泥んこ道に丸太の輪切りを飛び石状に ★

メインの道からカエル池に至る道はいつもぬかるんでいる。それをどうするか懸案事項であった。そこで瀬尾友紀さんが発案。木の輪切りを、飛び石状に敷き、それを足場に通れるようにしようという。枝谷戸にある材木を利用することにした。枝谷戸の倒木を電気鋸で20センチ厚さに輪切りにする。なかなか水平にいかないがやっ

と約40個作る。それを一輪車や背負子で現場に運ぶ。背負子は荻野さん。これを道の土の中

に槌で打ち込むのは福島さん。瀬尾さんの指揮のもと、若手新人が大活躍。輪切りの木で和風の道の

（瀬尾、荻野、福島、長山）（写真☛）



丸太の輪切り

出来上がり。



★ 土嚢袋で堰づくり ★

その道の両側に土嚢で堰を作る。土嚢袋を持つ人と土を入れる人の息の合ったコンビで仕事ははかどる。土嚢を一輪車で運び、堰にする。その上に泥をたたきつけるように塗りつける。小坂さん、瀬尾祥子さん、山岸さん、山田さん、あとから、大屋さん、長坂さん、栗原さんも加わり、着々と堰が仕上がっていった。（写真☛）



土嚢をつくり、堰にする



★次回作業内容★ 3月28日（日）13：30～
御所川沿いの道整備の続き5回目

